

自然教育園

やさしい生態学講座

全6講座

1 2/14(火)

身近なコケの生物学

うざわ みほこ

鵜沢 美穂子 ミュージアムパーク茨城県自然博物館
企画課 主任学芸員



街なかから山地まで幅広い環境に生育するコケ植物。小さいながらも精緻な体のつくりとともに、受精の仕組みや雌性について紹介します。また、植物・動物とのつながりもあわせて、「生き物」としてのコケ植物の姿をお伝えします。

2 2/15(水)

冬の町でも虫探し・越冬昆虫観察のすすめ

こまつ たかし

小松 貴 国立科学博物館 元協力研究員



昆虫の観察や採集は、夏休みだけの遊びではありません。寒風吹きすさぶ真冬、市街地の公園でも思いのほか色々な昆虫が見つかるものです。本講演では、そんな虫たちの不思議な生きざま、そして彼らを見つけ出すちょっとしたコツを伝授します。

3 2/16(木)

ガンカモ類と鳥インフルエンザの切っても切れない関係

もりぐち さちこ

森口 紗千子 日本獣医生命科学大学 ポストドクター



いま世界中で猛威をふるっている高病原性鳥インフルエンザウイルスは、ガンカモ類をはじめとする渡り鳥が運んでいるといわれています。ガンカモ類の生態から鳥インフルエンザにまつわる問題をひも解いてみましょう。

4 2/17(金)

知れば楽しいクモの生態・多様性

ばば ゆうき

馬場 友希 農業・食品産業技術総合研究機構
上級研究員



本講座では身近な生物であるクモの多様な生態や環境との関わりについて様々な研究事例を紹介します。クモは「嫌われ者」として扱われることが多いですが、その興味深い生態を知ることで見方が180度変わるかもしれません。

5 2/18(土)

草地・雑木林の生物多様性保全

うちだ けい

内田 圭 東京大学 附属生態調和農学機構 助教



草地や雑木林は、人間の活動により維持されてきた生態系です。人間活動の縮小によって生物多様性は減少し、草地や雑木林に生育・生息する絶滅危惧種が増加してきました。本環境における生物多様性保全の研究事例について紹介します。

6 2/19(日)

共に生きるとこんなことができる！ 微生物と植物を例に

なりさわ かずひこ

成澤 才彦 茨城大学農学部食生命科学科 教授



生き物の生態を学べば学ぶほど、彼ら、彼女らは争わず、賢く共に生きていることがわかってきます。では、共に生きることによってどんな良いことがあるのでしょうか？微生物をメインに、少しだけヒトの視点からお話しします。

日 時： 令和5年2月14日(火)～19日(日) 各日13:30～15:00

会 場： 国立科学博物館附属自然教育園 第一講義室

対 象： 一般・大学生

定 員： 各講座 30名

参加費： 無料

申込み： WEBのみ。令和4年1月14日(土) 10:00より受付開始。
先着順・定員になり次第締切。



● 自然教育園ホームページのイベント欄より、注意事項をご確認のうえ、お申込みください。

● 都合により中止になる場合があります。

国立科学博物館附属自然教育園

東京都港区白金台5-21-5

TEL.03-3441-7176

